



『すこしずつの親友』 <sup>もりの</sup>森 榎 こみち／著  
講談社 913 ㊦

あなたに友だちはいますか？ では親友は？ 「親友はつくるものでなく出会うもの」 そう言った伯母から、「わたし」は伯母が出会ったすこしずつの親友の話を聞きます。なにかが通い合い、その人の一部が自分の一部になったとき、こころのうちを吐露されたとき、互いに不安をわかちあったとき。すこしずつの親友はあなたのそばにも。  
【ティーンズコーナーにあります】

『物語ること、生きること』  
上橋 菜穂子／著 瀧 晴巳／著  
講談社 914.6 ㊦



児童文学作家の上橋菜穂子さんが作家になるまでの過程が書かれています。初めての世界に飛び込んでいくのは勇気がいりますが、上橋さんは「靴ふきマットの上でもそもそしているな！」と自分に活を入れて、奮い立たせているそうです。将来を考える方にエールを送ってくれる1冊です。

『はぐれくん、おおきなマルにであう』  
シェル・シルヴァスタイン／著 村上 春樹／訳  
あすなろ書房 E㊦



はぐれくんは、自分にぴったりの形を探しています。幾度となく出会いと別れを繰り返し、本当にぴったりの形の手を見つけました。けれどしばらくすると思いもかけないことが起こります。はぐれくんが探していたものは自分にとって何を意味するのか、深く考えさせられます。  
【絵本室にあります】



『スクープのたまご』  
大崎 梢／著 文藝春秋 913.6 ㊦

物語の舞台は出版社。入社2年目にして、週刊誌の編集部に異動になった日向子。徹夜の張り込み、直撃インタビューなど初めてのことで失敗して落ち込むこともあります。記者として記事を作り上げることに達成感を感じるようになります。日々奮闘する日向子の姿に励まされ、勇気付けられることでしょう。お仕事小説ですがミステリーとしても楽しめます。

『すこしおなかすいてきた』 林 木林／作  
東 久世／絵 小さい書房 726.6 ㊦



調子が良い日もあれば、悪い日だってあるのが人生。可愛いイラストと語りかけるような文章で、そんな日常の中の「しくじった日」に焦点を当てています。いつも見ていた景色が違って見えるくらい落ち込むことだってありますよね。自分だけが経験することではなく、あたりまえにあることだと気持ちを楽にできる1冊です。



『時生』 東野 圭吾／著  
講談社 913.6 ㊦



どうしようもない若者だった拓実の前に、突然現れた謎の少年トキオ。人の言うことなど聞かない拓実だったが、トキオにだけはなぜか心を許してしまう。ある日、拓実の恋人・千鶴が謎の失踪を遂げ、二人はその行方を追うことに。彼らや周囲の人々を通して、人生を前向きに生きることの大切さを教えてくれる感動の1冊です。



『おひとりさま専用 たんぽぽ食堂』  
たんぽぽ／著 永岡書店 596 ㊦

食べることは毎日の生活の基本。とはいえ、忙しくて、つついコンビニ頼りになることもありますよね。タンポポさんの料理は、冷凍食品や缶詰なども活用して簡単に短時間でできるものばかりです。大人の第一歩として、まず食生活から見直してみませんか？

『しあわせをさがしているきみに』  
エヴァ・イーランド／著 いたう ひろみ／訳  
ほるぷ出版 E㊦



主人公は、しあわせをさがしに心の旅に出かけます。途中いろいろな形のしあわせに出会ったり、心の暗い森に入り込んだりします。そして、旅の終わりに抱きしめた物とは。淡い色合いの絵と優しい言葉が語り掛けてきます。しあわせとは何かとを考えさせられる絵本です。  
【絵本室にあります】



『人類と気候の10万年史』 中川 毅／著  
講談社 451.8 ㊦

1993年、福井県若狭湾岸の水月湖に7万年分の「年縞」があることがわかりました。年縞とは、1年に1枚ずつ形成される薄い地層のこと。これを1枚ずつ分析すれば、何万年前の出来事も1年毎の推移を詳細に知ることができます。水月湖は世界最高品質の年縞を持つ湖なのです。

筆者の地道で丁寧な調査と研究によって、数万年前の気候が鮮やかによみがえります。なお、琵琶湖にも水月湖ほどの精度ではありませんが、40万年分の地層があるそうです。

『1ミリの優しさ IKKOの前を向いて生きる言葉』  
IKKO／著 大和書房 159 ㊦



タレントや美容家など様々な分野で活躍しているIKKOさん。本書には、IKKOさんが60歳を前にして大切だと感じた経験や想いが、1ページに一言ずつ、柔らかな言葉で綴られています。立ち止まったときに1ミリずつでも優しい気持ちを持ち続けられるように、生き方のヒントとなるように、心にとどめておきたい言葉を見つけてみませんか？

『よあけ』 ユリー・シュルヴィッツ／作画  
瀬田 貞二／訳 福音館書店 E㊦



みずうみのそばで静かに時をすごすおじいさんとまごがいます。だんだんと日が昇り世界が色づいていくなか、ふたりはみずうみにぼーとをこぎだします。

静かに、時の経過を描いた絵本ですが、淡い色彩で描かれた世界が少しずつ色づいていく様は、大人が読んでも心に響く1冊です。  
【絵本室にあります】